

# プレゼンテーション

スーパープレゼンテーション



中学校

高校

総合

情報

外国語

英語

24分

## プレゼンの名手登場!

(2012年放送)

### この番組の良さ



#### 視覚に訴えるプレゼンテーション

この番組では、1400本を超えるTED Talksと呼ばれるプレゼンテーション(以下「プレゼン」)のうち2本が紹介されています。1本目は、番組解説者の伊藤穰一氏(MITメディアラボ所長)が「知っている中で一番プレゼンが上手い」と言い、ビル・ゲイツ氏も「人口問題に最高の解説を与える人物」と評価するスウェーデンの公衆衛生学者、ハンス・ロスリング氏のプレゼンテーション。アナログとデジタルを使い分けた説得力のあるプレゼンに魅了されるでしょう。2本目はエンジニアであるマット・カツツ氏の体験談に基づいたプレゼンで、自分のアイデアを多くの人と共有したいという熱意が伝わってきます。

#### 各科目の授業のねらいで

総合的な学習の時間をはじめとし、各科目の授業のねらいにそって活用することができます。

### 番組活用のポイント

#### 表現の多様性を学ぶ

新しい学習指導要領では言語活動の充実が掲げられています。その目的の一つが表現力をはぐくむことです。プレゼン名手のハンス・ロスリング氏のプレゼンは、「増え続ける世界人口」。人口増加問題に対する新たな解決策を伝えています。前半では「人口」や「先進国・発展途上国」などの捉えにくい概念を「箱」や「模型」を使ってアナログで表現し、後半は膨大な統計データを自ら開発したデータ表示技術を使って、動的にデジタルで表現しています。このアナログとデジタルの対比が鮮やかで、表現の多様性について学べるとともに、プレゼンで重要なことは「説得力」であることを理解することができます。

#### 効果的なスライドと話術

マット・カツツ氏のプレゼンは「30日間チャレンジ」。前からやってみなかったことを30日間試しにやってみるといえるものです。自分の体験をもとにスライドを効果的に使いながら、軽妙な話術で、目標の設定と達成について考えるための方法が提案されています。

#### いろいろな授業に使える

番組中、伊藤穰一氏が「統計学とビッグデータ」について解説しており、「ムーアの法則」に関連した内容にも触れているので数学や情報の授業に利用できます。また、もともとこの番組は、語学教養番組として制作されているので英語の授業やプレゼンを学ぶ教材として、中学・高校の各学年のいろいろな授業で活用できます。

#### より効果的に

クローズアップ現代『アイデアが世界を変える』(P.38)を前もって視聴し、TEDについて理解したうえで、番組を活用するとより効果的です。

(井上 勝)